



全国棚田(千枚田)サミット

九月八日・九日、第二十四回全国棚田(千枚田)サミットが長野県小谷村で開催され、高橋孝行、夏目宏一、小山孝夫、松下誠、原田武典、原田英史、田中幸夫、丸地典利、山中哲郎、高橋義昌、柴田賢治郎、小山舜二が参加した。



開催趣旨等は前号に記載したので省略する。

一行は、早朝五時半出発。午前中の基調講演を聞くことができた。ただ、残念なことに会場が体育館のため、講演者の声にエコーが効きすぎて聞きづらかったのが難であった。

午後の分科会では「まもりびとミーンティング」一部に全員参加、事例発表を聞き、他の分科会へ、(舜)は二部に参加、棚田保全への想いを喋りすぎるくらいに発言した。部会で収集した主な事柄は①棚田米がすべて美味しい訳ではない。高単価で取引の話があると、化学肥料(窒素系)で収量の増加を図るなど、品質低下、イメージダウンを招き、その調整に五年も費やした。②政府買上げ価格にkg六十円を市で補填する。(例:出荷価格九千円+補助金十三千六百元)と直払いで何とか…

交流会は、全国の百姓衆が一堂に集い、楽しいひと時を過ごした。

翌日の現地視察は複数の棚田見学が行われたが、(舜)のイメージで

は小谷村はイワナ増殖技術の確立の原点であり、超山奥と認識していたが、一枚の田んぼが二十〜三十坪もある大きな段々田んぼで、「あんな、大きな田んぼは作るの嫌だ…」など、参加者の率直な気持ちがあった。来年の開催地、山口県長門市から大勢が駆け付け、アピールされた。呑み、喰いをチョコツと控え、銭を貯めて、大勢で行かまいかん…。



今年の稲の出来具合

今年は、獣害もなく、稀に見る豊作と、ほくそ笑んでいたが、台風二十一号(九月四日)が起因した長雨で稲穂が芽生えてしまった。発芽した稲穂同志が絡み、バインダーでの稲刈りも困難を極め、多くの百姓は軽トラにバインダーを乗せ、農機具屋に診察やら入院などと飛び回る姿が垣間見られた。半世紀以上も百姓をしているが、台風でもこんなことはなかった。やはり、酷暑と長雨の影響であろう。芽生えた稲は山へ捨てるのと害獣を呼び寄せることにもなる。面倒でも田んぼの畔やはざ架けで乾燥させてから燃やすしかない。辛いやら…情けないやら…

理事会

九月二十二日、第二回理事会を開催した。【特記事項】

- ① 秋の環境整備活動について
十一月十八日(日)、午前八時から草刈り作業。午後一時から木橋の防腐剤塗装作業。なお、午後の部は一般も呼びかける。
- ② 収穫感謝祭開催について
十二月九日(日)、地域内外からの集客を図り、餅つきをメインに各種物販やコンサート等の協力を得て、一年を感謝で締めくくる。等々

侵入防止柵の効果

四谷の千枚田は、チョット前までは名古屋や浜松方面など、近郊からの見学者が主であったが、素晴らしい景観に魅せられた人々はSNS（フェイスブックなど）などにアップ。おかげで広く知れ渡り、年々、訪れる人たちが増えている。特に、三遠南信道路、新東名開通以降、広く日本国中から訪れるまでに至った。また、ここ数年からは世界各国からの多様性に富んだ環境、農業の研修者が目立って多い。

そんなこんなも、厳しい条件に耐え忍んで守る耕作者の努力で保全されていることは歪めない事実である。

大勢の人たちが訪れる千枚田。訪れるのは人間だけでなく、イノシシやシカ、サルも遠慮会釈なく訪れ、精魂掛けて育てたイネを食べたり、ヌタを打ったり、傍若無人な横暴ぶり、昨年、一昨年などはイノシシをはじめとした害獣の被害に遭わない農家は一軒もないほどの被害を被った。

棚田の百姓はお人好しで、「街から折角見に来てくれるので、網や柵みたいな無粋な物を千枚田に張る訳にやあいかん」と、我慢に我慢

を重ねてきたが、「もう、限界だ：田んぼをやめるしかない」などの声もピークに達し、侵入防止柵設置の機運が高まった。高橋伸治、小山秀夫、今泉雅男、高橋孝行らが発起人となり、耕作者総意(ほぼ)から設置の賛同を得た。そこで、行政、関係機関への申請等々を任せられた(舜)は「千枚田を残すか、やめるか」逼迫した窮状を獣害対策関係機関に訴え続けた結果、「鳥獣害防止対策事業自立施工侵入防止柵使用貸借規約」を結ぶことができた。

昨年末の十二月二十五日、資材が搬入されると同時に設置作業に取り掛かり、あつと言つ間の二月二十日には設置完了と、如何に、被害防止に期待を抱いていたことか、会う人ごとに「よかったえん」、「有難いぞん：」の声を聞き、今を以って感涙の至りである。

イノシシ、シカ侵入防止効果は抜群で、収穫真っ盛りの現在までに「ふれあい広場」の転落防止木柵の隙間から「うりぼう」が入り、皆で追い出し作戦を行ったのと、景観道の扉が開けられたままでの被害以外は、ほぼ無かった。ただ、県道や市道等は、取り締まる権利がないため、毎夜の爆竹作戦に依存している。

いずれにしても、千枚田の保存管理に、耕作者は大きな喜びと力を得ている。ありがとうございます。

稲刈り

○九月十三日、豊橋調理製菓専門学校一年生は丹精込めて育てた稲の刈り取り作業を行った。稲の生長調査では二本植え、三本植え、四本植えの結果から二本植えが優位であったことを学んだ。



○九月十三日、市立鳳来寺小学校五年生十一名は四谷の千枚田で稲刈りをしました。五月に苗を植えてから四か月。今年は台風が何度か来ましたが、元気に育ち、たくさんお米ができました。小山さんや運転手さ



んたちに教えてもらいながら、ていねいに稲を刈ったり束ねたりすることができました。食べるのが楽しみです。(鳳来寺小学校HPより)

○九月二十四日、JA愛知東農協子ども農学校の稲刈りが行われ、NHKで生放送された。

今後の予定

- ・九月三十日(日)、しんしるエコフエスタ出展
- ・十月五日(金)、ニューキャッスルアライランス対応(現地案内と棚田っ娘による五平餅作りの実習)

行 平成三十年十月一日
鞍掛山麓千枚田保存会
発 文 責 小山舜二